

令和4年度 第1回かながわコミュニティカレッジ運営委員会 会議録

○開催日時 令和4年8月4日(木) 13時30分～15時30分

○開催場所 Web会議システムによるオンライン開催

○出席者

坂口 緑 (明治学院大学社会学部社会学科 教授)

大関 晃一 ((社福)神奈川県社会福祉協議会 地域福祉部 地域課 課長)

加藤 直樹 ((一社)神奈川県専修学校各種学校協会 常任理事)

為崎 緑 (中小企業診断士)

鶴山 芳子 ((公財)さわやか福祉財団 理事)

町田 真由美 (公募委員)

米田 佐知子 (子どもの未来サポートオフィス代表)

○議題

- 1 令和4年度かながわコミュニティカレッジ運営委員会の進め方について
- 2 令和3年度かながわコミュニティカレッジ講座実施結果について
- 3 令和4年度かながわコミュニティカレッジ運営業務の実施状況について
- 4 令和5年度かながわコミュニティカレッジ講座編成の考え方について

○議事内容

議題1 「令和4年度かながわコミュニティカレッジ運営委員会の進め方について」

(県事務局より資料1に基づき説明)

議題2 「令和3年度かながわコミュニティカレッジ講座実施結果について」

(県事務局より資料2-1、2-2に基づき説明)

米田委員

質問でなくコメントですが、今、坂口座長からもお話しありましたように、コロナ以前に比べて、オンライン対応や感染予防対策について、相当、事務局の方々が心配りして実施されたのではないかと思います。

県民の方々に学びの機会がしっかり提供され、こうやってアンケートの結果に数値として出ているので、とてもよかったと思います。事務局の方々から、感染予防対策などで何かご苦労されたことなど、少しコメントいただければと思います。

県事務局

県の事務局から少しお話しをさせていただきます。

令和3年度のコミカレ事業でございますが、2年度と同様にコロナウイルスの感染症拡

大防止のため、運営につきましては、大きな影響があったところでございます。

緊急事態宣言が8月に発出されたことから、オンライン講座以外のものについては、延期、そして、オンラインと変更させていただき、また、委員の皆様からも、YouTubeによる期間限定配信をしたらどうかというご提案をいただきまして、実際にアーカイブ配信を実施するなど、新たな取り組みを行ったところでございます。

また、運営委員会の委員の皆様から、「オンライン講座だと受講者のフォローアップが課題となるのではないか」というご意見をいただいていたところでございます。

受託事業者からの報告書にもございますが、フォローアップ会の実施や、オンライン交流会等を開催し、今後の活動に向けたモチベーションの継続に努めたところでございます。その結果、昨年度の延べ受講者数、5,266人コマということで、当初計画、それから、県の予算上の計画値を上回る結果となっております。こうした取り組みにあたっては、受託事業者、それから講座実施団体など、多くの方々の努力、創意工夫によるものが大きいと考えております。

受託事業者から何かありますでしょうか。

受託事業者

今、県の事務局よりお話しがあったとおりにかと思えます。コロナ禍であっても、県民の皆さんの学びの意欲、或いは地域活動、NPO活動への参加の意欲というのは変わっていないのだらうと思えますが、やはり感染状況の波の中で、受講者の皆様の参加も多くなったり少なくなったりという波があった1年だったかなと思えます。

講座実施団体、或いは講師の皆様には、予定を押さえていただいたにもかかわらず、変更ということでしたが、皆様快く、再度の日程調整にご協力をいただきましたことに、大変ありがたく思っております。

坂口座長

ありがとうございました。他に委員の皆様から何かありますでしょうか。

為崎委員、お願いします。

為崎委員

ご説明を伺って、受託事業者がすごく頑張られて、講座の質も落とさず、講座実施団体の方も頑張られてということが伝わりました。

2点ほど受託事業者にお伺いしたいことがあります。緊急事態宣言により講座が実施できなかった期間があったので、10月から12月の3ヶ月間に講座が集中したというふうにあります。集中したことによって事務局である受託事業者や、受講生にとって何か不都合が生じたことがなかったのかというのが1つ目のご質問です。

それから2つ目は具体的な講座の実施結果について、先ほど、県の事務局から、ご説明が

あったのですが、傾聴ボランティア養成講座、発達障がい児の講座は、毎年繰り返し行われていても応募率が高く、満足度も高いといったような結果が得られています。この2つの講座の実施方法など、他の講座実施団体さんが学べるような、何かこういうところがいいからこのような結果が得られているのではないかということがあれば、お聞きしたいと思えます。

受託事業者

1つ目の講座の実施時期が集中したことによる課題については、年間にいくつか重ねて講座を受講される方もいらっしゃるのですが、同じ時期に受けたい講座が重なったということで、どちらかに選択せざるを得なかったという声はあったと聞いております。

また、コロナ禍ではありましたけれども、講義室1、2を同時に使ってということもありましたので、時間単位で人の流れ等に留意するということがあったかと思えます。

2つ目のご質問につきまして、かなり前から、毎年開講していただいている2つの講座に関しましては、ご指摘のとおり、どちらの講座も大変人気が高いです。講座の実施の工夫もあるかと思えますが、毎年新しい方が受講されることを考えますと、傾聴、或いは発達障がいのあるお子さんへのケアというテーマに、県民の皆さんのご関心が高いということが一つあるかと思えます。

傾聴に関しましては、この講座を受けた後に、また新たなボランティア講座を受ける方も多いということから、活動の入口として考えておられるところもあるかと思えます。

発達障がい児の講座に関しましては、実際に療育にあたられている専門職の方が、受講されることもあると聞いておりますので、内容が非常に良いということが、最も大きな点ではないかと思っております。

為崎委員

今のご説明を受けて改めて感じたのは、やはりまだ潜在的に眠っている県民ニーズや今の時代に合ったテーマの掘り起こしがとても大事ではないかということです。ですので、そういうものが掘り起こせるような講座の募集などをどのように進めていくかということが、今後の課題かなと感じました。

坂口座長

ありがとうございました。その他いかがでしょうか。

町田委員、お願いします。

町田委員

昨年、受講させていただいた講座のことについての感想を改めて申し上げたいと思いま

す。

資料2-1の9番「これからの団体広報が変わる！人が集まる講座企画と思わず手に取るチラシの作り方」という講座なのですが、実は私、この講座を受けさせていただきました。受講させていただく点で、大変助かったのが、7月3日に、資料2-1に記載の1番の講座と、9番の講座があって、どちらを受講しようか悩んでいるうちに、もう少しで申込締切がきそうなときに、メルマガをいただいて、気が付いて申し込みができたということがあり、メルマガの効果というか、すごく助けていただきまして本当にありがたいなと思いました。

実際、この9番の講座を受けさせていただいて、その日がちょうど台風の影響を受けて、受講生が来れないといった日で、急遽、講師の方の講演を録画して、来れなかった方たちに対応するというような臨機応変な対応をとっていただきました。

昨年の運営委員会の中でもご説明ありましたが、私も参加させていただいて、臨機応変な対応が素晴らしいと感じたとともに、確かに参加人数は少なかったかもしれないですが、4名ごとにグループを組んで、みんなで話し合うタイミングをいただき、対面の良さを体感できた素晴らしい講座だったので、参加させていただいてよかったなと思いました。

臨機応変に対応できるというその力がすごいなっていうところがあって、本当に皆様のお力のおかげで、学びの場をいただけたので本当に感謝を申し上げたいなと思います。いろいろありがとうございました。

坂口座長

貴重な体験に基づいたコメントを本当にありがとうございます。

数字を見るだけだとそのようなことまではなかなか見えてこないのも、メルマガがよく届くとか、台風に対応するとか、そういったことも踏まえての講座の結果だったのだと思います。

議題3「令和4年度かながわコミュニティカレッジ運営業務の実施状況について」

(受託事業者より資料3-1、3-2に基づき説明)

為崎委員

ご説明ありがとうございました。7月3日に行われたオンラインセミナーの6割が男性というところが、通常と男女の比率が逆転しているので注目いたしました。

テーマのせいなのか、或いはオンラインという方式がよかったのか、そのあたりなぜ男性が多かったのか、事務局さんとして分析していることがあればお聞きしたいと思います。

もう1点、コミュニケーションボードの活用はとても面白く、読んでいるとリアルな感じが伝わってきますが、実際にそのコミュニケーションボードに貼られたことがきっかけになって繋がったとか、或いは受託事業者が繋げたとか、何か効果として得られたようなものがあればご紹介いただければと思います。

受託事業者

1つ目のご質問に関しまして、個人としての印象ではございますが、この講座が「人生 100 歳時代 地域で学び、地域で活躍する」というメインテーマを掲げており、60 代前後の男性の方に非常に響くテーマだったことが一つの大きな要因ではないかと考えております。また、江戸の町の話の後に、地域での学びということで、かながわコミュニティカレッジをご紹介させていただいたので、どのぐらいの方がこれからかながわコミュニティカレッジを受講されるのか、分かる限りデータ等も見てみたいと思っております。

また2つ目のご質問の、パンフレットラックやコミュニケーションボードの効果についてですが、近況報告シートを貼ったあと、まだそれほど多くの方に見て頂いていない、これからかなと感じているところです。

また、近況報告も「一緒に活動する仲間を集めます」という具体的なメッセージまで書いていらっしゃるものは少なく、ご自身が今こんなことをしていますという近況が多いです。具体的に「私も仲間に入りたい」という繋がるような流れまでは生まれていないという現状でございます。

為崎委員

今のお話しを受けて一言だけよろしいでしょうか。

やはりコロナとか色々な難しい状況にある中で、コミュニケーションボードはツールとして非常に良いかなと思う面もあります。ただ一方で、個人情報の問題もあるのでなかなか発信方法が難しいのですが、うまく受託事業者が間に入り、「こんなことがやりたい」、「こんな人が欲しい」ということが、何か繋がっていければいいかなと思いました。

坂口座長

ありがとうございます。鶴山委員、お願いします。

鶴山委員

ありがとうございました。

本当にコロナの中で柔軟に進めていくことも、どんどん力をつけていらっしゃる、慣れていらっしゃるなという中で、為崎委員からのお話しからも少し思ったのですが、受講生の方々が、先ほどのテーマではないですが、地域で活躍できる、地域に繋がっていくところが、今までフォローアップを含めて課題として話し合ってきたと思います。

今年の12月頃に行うオンライン交流会で、受講生や修了生の情報交換としていらっしゃるけれども、例えばこの方がどんなニーズを持っているかというあたりが、先ほどの近況報告シートにも繋がってくるのかなと思います。どんな意見を持たれているのかにもよるのですが、例えば、そこに地域の受け皿となるようなところの方や、来年度のテーマにも

かかってくると思いますが、市区町村等のまちづくり、地域づくりをやっているところ、またはNPOセンターみたいなどころなど、受け皿の情報になるようなところの人にもオンラインであれば参加していただき、地域の活動に繋がるような機会になったりするのでもいいのかなと思います。

ニーズがはっきりしていれば、受講生たちだけではなく、次の活動に繋がるような人たちに参加していただくようなこともどうなのかなと思っております。ご検討いただければと思います。

受託事業者

ご助言ありがとうございます。検討したいと思います。

坂口座長

ありがとうございます。

この2年ぐらい、修了生のネットワークづくりというのが、それまで中心ではなかったはずですけども、非常に臨機応変に充実させて運営いただいているように思います。さらにこうしたらいいのではということが私たちの方でも考えられるのかなと思い、この進め方自体、本当に良いなと思っております。

町田委員、お願いします。

町田委員

講座の名称のことについて、お分かりになる範囲で結構ですので教えていただきたいと思っております。

傾聴の講座なのですが、昨年までは「傾聴ボランティア養成講座 入門コース」という名称が使われていたところ、今年、令和4年度については、「傾聴講座（入門編）～人と関わる活動に向けてのスタート～」というような形で、名称を変えているところの中で、私の個人的な感覚ですと、今回の名称の方が申し込みたいと思うような感じがありました。アプローチの仕方を変えたというのは、何かあったのかなというところで、もしお分かりになれば教えていただけたらと思います。

受託事業者

この講座を受けた後に別の講座を受講する方が多い傾向がありましたので、傾聴の講座は、ボランティア活動の入口としての講座という位置づけも私たちの中では認識がございます。傾聴というスキルに加え、対人のボランティア活動に参加される方の入口としてのイメージをもう少し持っていただければということで、こういった副題がついたと考えております。

町田委員

ありがとうございました。とてもわかりやすいし、本当に何かやろうとしたときに、手を挙げやすいかなと思ったので、とても効果的だと思いました。

坂口座長

他にいかがでしょうか。

為崎委員、お願いします。

為崎委員

あと1点だけお聞きしたいと思います。令和3年度と4年度を見比べてみたら、主催講座等、大きな変化がないかなという印象を受けました。コミュニティカレッジというのは講座として応募がなければ、多様なテーマをなかなか形にできないという部分があると思います。

受託事業者が事務局としてやっていらっしゃって、もう少しこんなテーマの講座が挙がってくるといいなと思うことがあればお教えてください。或いは既に挙がっているもので十分だと思われるのであれば、そういったご意見を聞かせていただければと思います。

受託事業者

今年度の講座企画提案の際にも、少し言及させていただきましたが、やはり講座づくりというのは、このコミュニティカレッジの中で大事な要素でございます。私たち事務局だけで創れるものではなく、現場のいろいろなテーマで活動されている団体さんのご協力なしには創れない、また必要なテーマというものについても、既に活動している方々から挙がってくるテーマというのが非常に大事ではないかと思っております。

他方で、1年ごとの区切りの中で講座企画を募集する時期が限られており、告知の期間に十分に団体さんに情報が伝えきれない中で、募集期間が終わってしまうという心配もございます。カレッジの中で講座を開講できるということを、年間通していろいろな団体さんにお伝えできるような工夫が必要になるのではないかなということは感じております。

テーマに関しましては、分野としてはおそらく網羅されているのだろうとは感じております。その中でも、新しいテーマや県内でこういう講座はまだないというものを探して創っていくというのはこれから先も必要になっていくと思っております。そこが私たちにとってチャレンジではありますが、そういったことの工夫をどのようにしていけばいいのかというのはまだ試行段階でございます。

為崎委員

ありがとうございました。

坂口座長

実際に地域で活躍するためのコミュニティにおけるスキルというか、専門家ではないけれども、知っておいた方がいいようなトピックを本当に網羅しているように思います。そして、講座名にそれが反映されているという町田委員のご指摘もありましたけれども、この辺も県民のニーズに合致しつつ、さらにオンラインということも広げていただいたおかげで、非常に新しいトピックというのをうまく受講生につなげてくださっているように思いました。

受託者の皆様におかれましては、今出た委員の皆様のご意見を取り入れていただいて、また講座を進めていただければと思います。本当に困難な時期であると思いますが、うまく講座運営されることを願っています。

議題4「令和5年度かながわコミュニティカレッジ講座編成の考え方について」

(県事務局より資料4に基づき説明)

坂口座長

1点、私から付け加えるとしたら、地域というのを非常に迷いながらこのメインテーマに入れて今回ご提案いただいたということなのですが、サブタイトルは今年提案として入っていませんので、それを考えてくださってもということを実は事務局から示唆いただいています。

まずは、単年度ごとに考えるということに関しては、以前合意いただいて、その方が私たちも考えやすいですし、運営受託に手を挙げる方々にも伝わりやすいということで、以前から委員をなさっている方からすると、こんなふうにもいつも変わるのかと驚かれるかもしれませんが、来年度、こちらのメインテーマをご提案するという点に関して、是非、ご意見、コメントをお願いいたします。

米田委員、お願いします。

米田委員

コロナ禍3年目で、在宅ワークが定着してくる中、地域をしっかりと見せていくこと、また、堀田先生がおっしゃる「面」ということも、とても賛成するところです。メインテーマを事務局案の「地域での助け合いが広がる社会づくりを目指して」に変更することに賛成です。

先ほど事務局からのご発言にありました、神奈川県としての姿勢として、NPOやボランティア団体との協働を踏まえる点については、メインテーマの説明書きに足せるならば、地域をベースに、地縁の活動とNPOボランティア団体との協働も意識しながらの学びと、補足の説明が加えられたらいいと感じました。よろしくをお願いいたします。

坂口座長

副題等でうまく表現できるといいかもしれませんが、他いかがでしょうか。

鶴山委員、お願いします。

鶴山委員

すごくご苦労されて書かれたということがよく伝わりました。今回のメインテーマについて、囲みで書いてくださったところで、先ほどの事務局からのご発言で1つ気になったところがありました。

これまで進めてきた NPO ボランティアから地縁の方に変えたということではなくて、「面」とするという意味には2つあります。

1つは、NPO と地縁の違いというところは、カレッジマスターの方が申し上げたと思います。

もう1つは、どちらも必要という中で、両者がネットワークを組んで重層的な包括的に進めるということも「面」であり、地縁だけに切り換えたということではなくて、NPO 型の方にどちらかというと偏っていたけれども、地域のニーズは人口も減少しているところは神奈川県内にたくさんあり、地縁の関係も形骸化しているということもあります。そういう中で、どちらも大事で、どちらが連携をしていくということも「面」という意味では、先ほど米田委員がおっしゃったようなところとも繋がるのかなと思います。

本年度のテーマの「多世代がつながる小規模ネットワークの構築に向けて」というところとそんなに大きく変わっているわけではないというか、そこをもう少し具体的に「地域での助け合い広がる社会づくり」とされていますけれども、言葉の表現が違いますが、言っている意味はそんなに大きく変わらないのかなという印象を受けています。この「面」ということは、カレッジマスターが言っていたような気がするので、良いメインテーマになったのではないかなというように声が聞こえてきそうな気がして、いい方向になっていくのではないかと期待しております。

坂口座長

ありがとうございます。

加藤委員、お願いします。

加藤委員

ありがとうございます。各委員の皆様からのご意見をそのままだというふうに、私も捉えております。

それともう一つは、このコロナ禍において、点ということで、何となく閉塞的な意味合いを持っていたのを、地域でもっと人の輪を広げるという面でも「面」というのが、今、適切な表現ではないかと捉えております。

坂口座長

ありがとうございます。

内容が大きく変わったわけではないということを、委員の皆さんよく理解なさっているなと思いました。

何か副題に入れる言葉など、具体的にご提案いただいてもと思うのですが、何か思いついたことがあればお願いいたします。

為崎委員、お願いします。

為崎委員

具体的な言葉が思いついたわけではないのですが、今皆さんがご発言になる中で、鶴山委員にもご説明いただいたように、「面を作る、それから地域の助けを作る」という時に、鶴山委員がおっしゃったように、昔のものを復活させるということではなく、今の時代に合った形や仕組みをどう作っていくかというのはとても大切かなと思っています。昔のような向こう三軒両隣が復活するわけではなく、地域の中で今の時代に合った、みんなが無理なく助け合いができる仕組みみたいなものをどう作るかということが目指せばいいかなと思っておりました。

副題についての具体的な言葉は浮かばないのですが、先ほど鶴山委員が「重層的な」とおっしゃっていたように、地域の住民や団体、そういう方たちが重層的に関わって社会を作る、面的に繋がる、また、加藤委員がおっしゃっていた「人の輪を広げる」といったような、何かそんなイメージが出るとういかなと思いました。

坂口座長

ありがとうございます。

このようなご意見をいただきながら、言葉が変わってくるのかなというふうに思います。

前回の運営委員会で、「協働のまちづくりと言ってしまうと、行政とNPOだけが対象になるような誤解を与えるのでは」という話しをしながらも、「実際にはまちづくりしているんな人が関わりますね」という話しをして、「多世代」を入れることになったことを思い出しながら伺っていました。

米田委員、お願いします。

米田委員

事務局のメインテーマ案に、「助け合い・広がる・社会づくり」というキーワードが既に入っていますので、これに加えて先ほどから意見が出ている、協働という要素が入ればいいと思ったことと、昔の助け合いに戻るのではない、というお話しも踏まえて、「新しい協働のあり方を目指して」という副題はどうでしょうか。たたき台ですので、ご意見いただけた

らと思います。

坂口座長

具体的なご提案ありがとうございます。米田委員がおっしゃった、「新しい協働のあり方を目指して」、とてもいいと思いました。コミュニティカレッジは、地域活動で必要になるスキルに関して、ここに集まることで身につけたり自分が持っているかもしれないことが掘り起こされたり、そして自信を持って次の活動につなげていける、そういう場になっているのかなと思いました。以前のように、ボランティア活動をしよう、学習すればいいという話しではなくなっていて、もっと切実な社会的課題というのを何とか関わっていきたいという人たちを掘り起こす場になっており、非常に望ましい形で運営されているように思います。ですので、そういう方々にリーチする言葉であるということも重要ななとは思いました。

町田委員、大関委員の順番でお願いします。

町田委員

昨年の「小規模ネットワークの構築」というところで、私がイメージしたのは、小さな集まりから広がっていくというイメージで、地域は居場所づくりというところが大きな活動なのかなと思っています。例えば、子供食堂や、自治会で高齢者が集まるようなカフェといった、そういったところから人が繋がっていくということが、地域の活性化になるのではないかなと思っています。

今回のテーマを聞いた時に、まず人が集まれる場があって、集まったことによって、色々な情報が共有され、次の活動になっていくのかなというイメージがあり、それが助け合いになるのではと思いました。地縁だとか、自治会だとか、NPO というところも、そういった形で巻き込んでいける話しですし、個人がそういう場所を立ち上げていって、どんどん活動を広げていくというのもありなのかなと思いました。また、助け合いの輪が広がっていくというイメージもあっていいのかなと思いました。具体的な言葉は浮かばなかったのですが、「居場所作り」とすると、自分が参加して今度は運営する側になるといった、どんどん活動が広がっていくようなイメージを持ちました。

坂口座長

ありがとうございます。

今、コミュニティに関わっている方も、むしろ新しい形のコミュニティづくりに親しんでいらっしゃるのだなというのが改めて分かりました。

大関委員、お願いします。

大関委員

地縁組織の部分について、少しお話ししたいと思います。

実際、地域の中で活動している自治会や町内会、民生委員の方々というのも、地域の中で役割を持って活動されているというところは、尊重していききたいなと思っています。

しかし、そういったものを担っていただいている方々の高齢化や、色々とやらなければならないことが多くなってきて、自分たちだけでは支えきれない課題が多くなってきているというのが現状としてあります。新たな担い手の人たちとどういう形で接点を持つていくかというのは、元々、地縁組織の方々も課題認識としてあって、そういったものをどういうふうに融合していくかというのが一つの課題だということを、地縁組織側も持っているというのがあります。

また、施策の中では、キーワードとして、地域共生社会や、包括的支援体制整備とか、重層的といった、なかなかネーミングとして難しい言葉で施策が語られることが多く、地域の方々からすると、それはどういう意味なのかというのが伝わりにくいように思います。例えば、地域共生社会であると、「住民の人がともにやっていく」とか、包括的支援体制においても、「そこに暮らす人たちがお互いに包み込まれていくような形」といったように、県民の方々に分かりやすいキーワードでお伝えしていく必要があると考えています。

そして、今回のメインテーマにある助け合いの「合い」というところがポイントで、普段、助けられる、支えられるという立場の方々がいるのですが、今の地域の中では、そういった方々も、一方で助ける、或いは支えるという立場になり得ることもあるので、そういった両面をどういうふうに表現していくかが、今後の地域の活動の中で大事になっていくと考えています。

坂口座長

ありがとうございました。

今のお話を伺っていると、あまり言葉を足して漢字を並べていくよりも、このテーマの理解を皆様に伝えていくことの方が重要だと改めて思いました。副題について委員の皆様にご検討いただくようお願いしたのですが、むしろこういう内容ですねということの合意が取れていくということの方が重要なかなとも思います。

今回のメインテーマについて、この文言で良いかどうか、一部修正が必要かどうかなど、ご検討いただければと思いますが、漢字の表記もこれでよろしいですか。

県事務局の方から何かありますでしょうか。一番、みなさんが議論なさってきたことかなと思います。

県事務局

メインテーマの設定にあたって色々考えたのが、住み慣れた地域で、これからもずっと暮らしていく上で、制度や行政の事業だけでは対応できない、様々な課題が生じることがございます。

身近な地域での助け合いや支え合いは、こうした課題を解決するとともに、コミュニティの力を強めていって、暮らしやすい地域づくり、また、住民の方の社会的孤立を防ぐということにも繋がると思います。そういった意味でこのメインテーマを設定させていただきました。

副題についてですが、坂口座長がおっしゃったように、副題をつけるのがふさわしいのか、また、大関委員がおっしゃったように、テーマをより分かりやすい言葉で説明した方がいいのか、これから検討してみたいと思います。

坂口座長

ありがとうございます。

もう1点、必ず実施すべき講座の内容についても、ぜひご意見を伺いたいと思います。

講座の編成についての考え方ということで、「環境・SDGs」というのを付け加えていただき、それから「ICT活用」について、独立させるのではなく、「団体運営・ICT活用」としてということで、今回ご提案いただいております。こちらの点に関しても。何かご意見がありましたらお願いしたいです。

米田委員、お願いします。

米田委員

「環境・SDGs」が入ったことは、今日的なテーマですし、とてもよかったと思います。NPOと行政の協働や、地縁とNPOの協働も大事ですが、昨今は、企業と市民活動との協働も大きなトピックです。このテーマの中で取り扱っていけるとよいと思ったのが1点目です。

もう1点、6番目に人権が入っていることも、とてもいいと思います。県は、ともに生きる社会かながわ憲章を、色々なところで普及啓発していますし、大切な視点です。人権に、多文化共生も足せないでしょうか。国際と言ってもよいかと考えましたが、海外支援というイメージが強くなるかもしれないので、メインテーマの地域の助け合いに寄せていくと、多文化共生の方がマッチする気がします。外国籍県民も増えておりますし、支援活動も多数展開されている神奈川県なので、ぜひ加えていただきたいと思いました。

坂口座長

具体的にありがとうございます。

現在行っている学習支援等の講座は、「地域のつながり・支え合い」の中に入っていますね。確かに、特出しして、多文化共生が入るのも神奈川県らしいと思います。8番をその他ではなく、8番に加えるなども検討できるかもしれません。

企業との連携は非常に重要というのは、良い指摘だなというふうに思いました。オンライン講座があることで、企業の中のCSR担当や、環境プログラムを担当している方なども、こういったところからさらに繋がるといってもあり得ます。

鶴山委員、お願いします。

鶴山委員

2番の講座の編成と書かれたところと少しずれるかもしれないのですが、先ほどと以前の議論も含めて、為崎委員がご質問されていた件と繋がるかなと思ったのですが、今回こういったメインテーマを新たに策定し、来年度進めていきたいと思いますという中で、講座については、必ずしもテーマに応じた特定の課題の解決に繋がる講座でなくても良いということだと思います。

ただ、そういう色々な講座がある中で、少しテーマを意識するような講座を設けてもいいのかなと考えます。前回のメインテーマも広いテーマなので、何らかで繋がるのかなという感じもしますが、敢えて意識してテーマを皆さんで議論しながら創っていきますので、そこに繋がるような講座を募集する際なのか、新たに受託事業者の方で創り上げていくのか、意識するということが1つあるかと感じたところです。

例えば、受託事業者の令和4年度の事業計画書を拝見したところ、事業型NPOの推進といった強みを持っていらっしゃるかなと思いました。「点」のNPO活動と「面」とする地縁活動のネットワークづくりというような、今回のテーマになってくるとと思いますので、繋げ方をリードするような人材を育成していくことや、地縁も形骸化している中で、新たな地縁活動を作っていこうという動きなどの事例も出てきていますので、そういったことを意識し、地縁をテーマにした講座を入れるといいのではないかと思います。また、市区町村ごとには、まちづくりや生活支援コーディネーターたちの動きとか、色々な活動が最近広がってきていると思いますので、そこと繋がる意識を各講座に持っていただくのか、メインテーマと繋がるような工夫をすべての講座ではなくても、していくのも1つあるのかなと思います。そうすることで、発展が見られるのではないかと考えました。

県事務局

我々が事業者を募集するものは2つございまして、1つは講座企画提案募集で、こちらは10月ごろ行っています。もう1つは、運営業務委託団体募集で、こちらは2月ごろ行っています。募集の仕様書を作成する際には、メインテーマに沿ったカリキュラムとすることとすることを条件に入れております。今回のメインテーマにつきましては、様々なご意見をいただきましたので、大関委員もおっしゃったように、もう少し分かりやすい言葉で、カリキュラムにうまく組み込むように、仕様書の方を工夫したいと思います。

坂口座長

加藤委員、お願いします。

加藤委員

私の意見といたしましては、令和3年度の実施結果と評価について、非常に高いものであり、安定してこれだけのご評価をいただいているというように捉えております

令和4年度につきましても、講座の募集状況も非常に良好であり、また、令和5年度にあたって、新しい課題としての「環境・SDGs」、「団体運営」そして、「ICT活用」という、最先端を行っているような課題についても基礎講座、そして専門講座ということを考えられています。もうこれだけでも相当お腹いっぱいになってこようかと思えます。他に講座というようなご意見も出ようかとは思いますが、これだけでも発展的なこととなると、またハードルを上げてくるのかなあと、一気に上げるのかなという感じもありますので、この辺で調整したらどうでしょうかというのが意見でございます。

坂口座長

ありがとうございます。

講座を企画していただく時に意識いただくメインテーマについては、分かりやすく伝わるということがやはり重要だなというふうに思います。ですので、講座が増えていくというよりも、それに向けて収斂するといいいのではということ鶴山委員も言ってくださったのかなと思いますので、ここでメインテーマを挙げておくと、社会づくりや地域といったことがメインとした講座がおそらく提案されてくるのかなと思いました。皆様のご意見が出揃っていただいて、大変ありがたいなというところです。

県事務局

委員の皆様、色々なご意見をありがとうございます。

鶴山委員からは、堀田カレッジマスターの真意をさらに詳しくご解説いただきました。

また、委員の皆様より、「新しい協働のあり方を目指して」、「重層的」、「人の輪を広げる」、「地縁組織との融合」といった、色々なキーワードもいただきました。

メインテーマにつきましても、副題というよりも、テーマをより分かりやすく、皆様に理解していただけるように、分かりやすい言葉で解説したものを付け加えるという方向で検討させていただきたいと思えます。

分野につきましては、多文化共生という言葉もいただきました。こちらについては、分野に少し加える方向で調整させていただきまして、改めて坂口座長と相談させていただければと思えます。

坂口座長

ありがとうございました。

為崎委員、お願いします。

為崎委員

前段の議論のところでも少し気になった部分があります

今後、潜在的に存在しているニーズや、そういったテーマを掘り起こしていくことが課題だというふうに受託事業者がおっしゃっておられました。分野を示すことも重要なのですが、もしかするとまだ眠っているニーズで、これら分野に入っていないものもあるかもしれないと思いました。

こちらで想定する以上のニーズや活動があるかもしれないという思いがあって、その時にやはり、「その他」で挙げてくるしかないのです、今の表現だと、「次の7つの分野（その他を除く）において、特定の分野に偏りの無いように提案すること」となっているので、何となく「その他」が少し軽い位置づけかなという印象を受けてしまうと思います。

眠っているニーズやニッチな分野といったものを掘り起こすために、その他もうまく入ってくるといいなというところで、少しこの表現を変えてはいかがと思いました。

「その他」が例外的なものよりは、新たなものを提案するとき、現在の分野に入らないテーマも提案しやすいといったような表現にしてはいかがかなと思います。これは、受託事業者の募集の時だけでなく、講座企画提案募集の段階でも、色々なニーズ、テーマが自由に挙がるように、何かうまく工夫していただいて、今救えていないものが救えるような表現にさせていただけるといいかなと思いました。

坂口座長

貴重なご指摘ありがとうございます。

ご指摘のあった表現について、県事務局の方でご検討ください。

県事務局

かしこまりました。ありがとうございます。